

7)領域の一般原理

7-1 今日性

グローバル化の潮流が広がる中で、自国ファーストという観点が示される。自国ファースト、自己とは何か、良好な自己認識の在り方について精査した見解が揃えられる。

7-2 根幹と枝葉、骨格性

生の基本的原理を土台性に築き、基礎と柱と全体性の骨格観があり、個別特定の観点を取り上げ、良好な自他との相関を作る態度が生まれる。基礎や骨格性の観点が弱いまま、妙に枝葉性の科目に優先性を与える姿は健全な自律と制御の歪んだ性質が進む。

7-3 物事の優先序列観の適正

基盤性の科目が不十分で、専門性を作る事の弊害が生まれる。流暢な外国語で馬鹿を晒すような事態を予防することが求められる。悪性と対立感情を作り直接間接の負の影響を広げる事態を回避する対策が作動する。適正な学問や教育性の作用が起こる。妙な技能性や知識性に偏り基礎性の素養と見識、概念が乏しいと正より負の因果を招く。驕や行儀の悪い性格による短絡の効果と利益追求は問題の根源に働く。根の深い亀裂や断絶を齎せる。物事の優先序列観の崩れた病理性を広げる。物質的な力の依存と略奪、盗みや詐欺、暴力性、負の因果と循環の深まり、荒れた世界と対立、破壊と消滅の軌道と拡大に陥らぬ勘所を掴む。

7-4 抽象理念の集約、根本的な観念

自由や開放や開拓や成長、拡大と緩和性を求めるに際し適正な制約性や絞りの要素を前段に抑え良好な緊張と緩和の周期と持続の生態に向けられる。平等性と自由性と民主制、安全安定安心と繁栄成長自由と健全と持続の理念性を集約する。生滅不可分の感性を根源性に宿し感性と概念と精神と身体の良い根幹性を作り個別特定全体の産出性に及ぶ。生と領域の一般法則や普遍的不変の真理性の見解を生む。

7-5 自己とは、自己認識

自己認識の適正な在り方、自他との良好な相関と持続性、人間性と社会性、人格観、具体の姿が以下のような形になって作り出される。

7-6 動静観

自領域の内包性に偏った認識が示される。外側と根本の見解を併せ持ち、特定領域の適正認識が作り出される。部分と全体と根本の相関を生む。静態性の見解を整えると共に、あるべき、ある、するという動態性の観点を加え健全な生命力と創造性が生まれる。

静態性：体系性、動態性：周期性、動静性：静態と動態の持続性、分化と統合、自立と協業、社会性、

根幹性：感性と概念と精神と身体の相関、根源性：生滅性、

7-7 説明解説、案内

特定分野や領域を解説する基本的な方法が整理される。

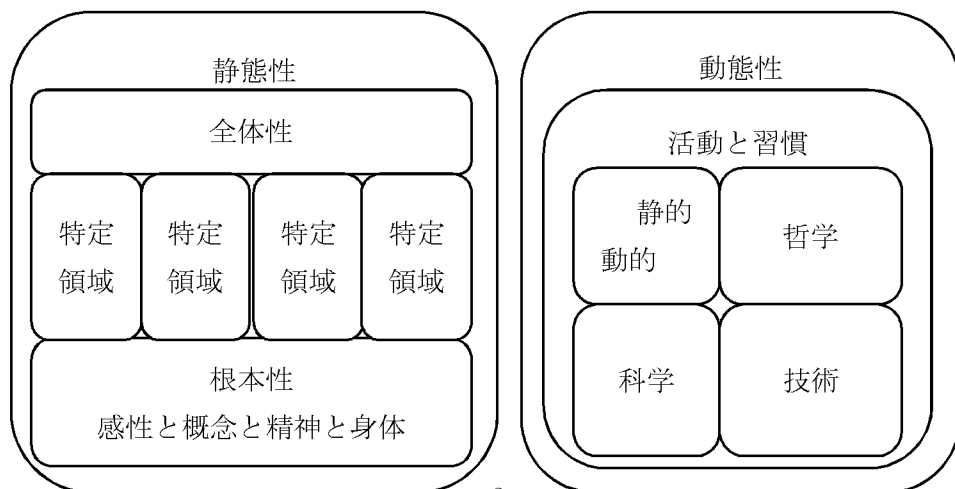
経過沿革、歴史性、現況性、未来性、

領域の定型定常観：領域内部の構成、領域の並列と上下の相関、

時々の内外環境の変動、課題、施策の優先、実施と検証と改善と持続、

個々の思索と有効性の検証と改善更新、定型定常観の改良と更新、

変わりづらい抽象理念性・祈願性



7-8 静態と動態

特定領域と他の特定領域の並列的な横の繋がりという観点が生まれない縦割りの領域性という現象が見られる。生命人間という根本の観点を引き出し、特定領域はどのような性格と配置を有するか、根本性からの特定性の性格を掴み、他の特定性との相関を構成する。根本且つ全体性及び特定性という体系と周期観が生まれる。あるべきという理想性と経過と現況の認識を掴み、理想性への作為を投じる静態と動態と動静の活動習慣を加えて、体系性と周期性と持続性を表し自己認識と外界への解説や案内に及ぶ。根本観点が希薄化した特定観は、歪な力加減と制御性の崩れた歪性に陥る。

7-9 縦割り内向き

自己の内包性の観点に偏り、外側との関係に視線と思慮が向けられない内向きの領域性は健全な生と持続の軌道を途絶えさせる。組織の肥大化、混乱的な分化と拡張、制御性の取られない個々の乱立、意味不明性の集約観、形骸化した抽象観と中身の不整合、形式と実際の乖離性、縦割り内向きの弊害、制御性の歪な過剰や過少を生む。羅列、断片、錯綜、重複、意味不明な論理形成、因果の飛躍、急進、ヒステリー性、自己性の押し付け強要、優越願望の異様さ、物質依存の強まり、根本性の希薄な専門過多という事象を生む。産出と検証と改善の習慣が弱まった歪な習慣と性質が生まれる。躰の悪さ行儀の悪さという生の基本的な性質の不良を伝える。

7-10 空疎的抽象、意味不明な抽象観念と一様の適用

いきなり全体性を志向し意味不明的な抽象観念をもって特定観を束ねたいなどという姿が生まれる。強権的に概念と適用を図る歪性を表す。根本の観点を省き歪な全体観と特定観の相関を作ろうとする歪な支配願望を招く。空疎性の抽象観念に偏った基準と一様の適用の力みの激しい権力欲や財欲性を生む。略奪や暴力性を濃厚化する。

7-11 標準性と過不足性、適当な制御性

根本観点の希薄化した専門分化の過剰、空疎的総合の過剰という両極の観点を生む。領域の歪性を予防する変わりづらい標準観が整理され時々の環境認識と最良の方法を作る動静の習慣を生む。

7-12 具体作為性、動静の適正

動静の適正を作る態度が進む。

- ・ 虫けら気性に対する物理的な反応と対処策の必要性、
- ・ 適正観の導出と訴求の作為、
- ・ 一時的一過性の作為に留まらず、基礎科目の適正と領域

健全な根本性をもって縦割り内向き化した役所の歪性を正す政治作用が投じられる。こうした概念を提起する哲学と教育と経済の作用が生まれる。理解と納得と共感が増し太い文化性が存続する。

